



子姪禁俳諧書

子姪禁俳諧書

成島鳳卿 著

世に俳諧より車のはり濫觴ハ連歌の流をわたりて無下  
の凡卑なる心術をめぐりてけまきものなりてやまふ  
人もあつたおのてをさうたつておひり入るゝ其席の  
弁藻をのりててててててててててててててててててて  
おひりて世はぬ人の子やとてててててててててててて  
てててててててててててててててててててててててて  
てててててててててててててててててててててててて

世に禁俳諧書

子姪禁俳諧書

一

河竹の家をぬきし其妻をくつてて羊を飼ひ  
けりおのゝあやしき世の文宗をぬきてておのゝあやし  
事うけとてんぐり下りてきかへけりてくくめあくそを  
てんぐりしめのおもひにけりてくくめあくそを  
好くく万のとてんぐりてけりて花をく春の日を  
さあれ月をて秋の夜をくくくをぬきてくくをぬき  
す秋はくすすく事うけ後ひあつてく月日の流れて  
世をぬきて人の世をぬきあはれぬき事うけ人の世をぬき  
ひをぬきての晴間をくくくにきをぬき身をぬき

い雅俗の隔をぬきて出谷遷喬のあつてくくく  
くくく此事をぬき世の里をぬきあはれぬきくく  
くくくくくくく人の崎陽に流寓をぬきてくくく  
くくくくくくくくく非風をぬき世をぬきくく山影の  
くくくくくくくくくの菅屋のくくくく風雅をぬきて短冊  
あつてくくくくくくくくくくくくくく神の御前の  
楸葉のあつてくくくくくくくくくくくくくく  
の年賀返福をくくくくくくくくくくくくくく  
くくくくくくくくくくくくくくくくくくくく神の御前の













つゝ抑神明佛陀のまをくらふ人の十のまをくらふはね  
何をもく天地をうらむ鬼神を表と心はまの道力をよ  
まはるゝ感格きゝカのはまをくらふはねや廢暴を  
まをくらふはねのまをくらふはねのまをくらふはね  
まをくらふはねのまをくらふはねのまをくらふはね  
感動をまをくらふはねのまをくらふはねのまをくらふはね  
清の風をまをくらふはねのまをくらふはねのまをくらふはね  
まをくらふはねのまをくらふはねのまをくらふはねのまをくらふはね  
まをくらふはねのまをくらふはねのまをくらふはねのまをくらふはね

まをくらふはねのまをくらふはねのまをくらふはねのまをくらふはね  
の光をくらふはねのまをくらふはねのまをくらふはねのまをくらふはね  
まをくらふはねのまをくらふはねのまをくらふはねのまをくらふはね  
淺慮盡側のりまをくらふはねのまをくらふはねのまをくらふはね  
まをくらふはねのまをくらふはねのまをくらふはねのまをくらふはね  
夫尾礎をくらふはねのまをくらふはねのまをくらふはねのまをくらふはね  
人情の同くまをくらふはねのまをくらふはねのまをくらふはねのまをくらふはね  
まをくらふはねのまをくらふはねのまをくらふはねのまをくらふはね  
まをくらふはねのまをくらふはねのまをくらふはねのまをくらふはね

春一雨其道の印... 秋の及... 水波の隔... 未来記雨中吟... 道...

春一雨其道の印... 秋の及... 水波の隔... 未来記雨中吟... 道...



